

# 高輪会会報

Reunion of Tokai University Takanawadai Senior High School



東海大学付属高輪台高等学校同窓会会報

発行所：東海大学付属高輪台高等学校同窓会

〒108-8587 東京都港区高輪2-2-16

Tel.03-3448-4011 Fax.03-3448-4020



Vol. 8

「高輪会」は、電気通信工業学校、電波工業学校、東海工業学校、東海高等学校・併設東海中学校、東海電波高等学校、東海大学高輪台高等学校、および東海大学付属高輪台高等学校の同窓会です。

題字は東海大学総長松前達郎先生

## 高輪会更なる発展

高輪会会長 土方 啓司



平成10年に55周年記念事業として新校舎が完成したのは我々の記憶に新しいところですが、昨年は60周年記念事業として綜合グランドの購入、更に今年に入ってグランド内クラブハウス新築工事の地鎮祭と母校は大いなる変遷をしております。高輪会も昨年は「第二回いとし会」を開催し新しい会員の方々も多数参加いただき、また一つ同窓生の輪を作ることが出来ました。今年も469名の新会員を迎える勢20,792名の会となり、今後益々活動できる下地が拡がってまいりました。会員の皆様方には、より積極的に同窓会活動に参加いただけるよう役員間で種々検討を重ね、この度、高輪会規程として「慶弔規程」を制定いたしました。この規程は会員の皆様方の慶事・弔事のみでなく、同期会・同窓会等を開かれるときにご連絡いただければ高輪会から「薄謝」を進呈させていただくことも規程しております。この制度を充分ご利用いただき、高輪会の有効活用をしていただきたいと思っております。詳しくは、本文或いは事務局にお問合せください。

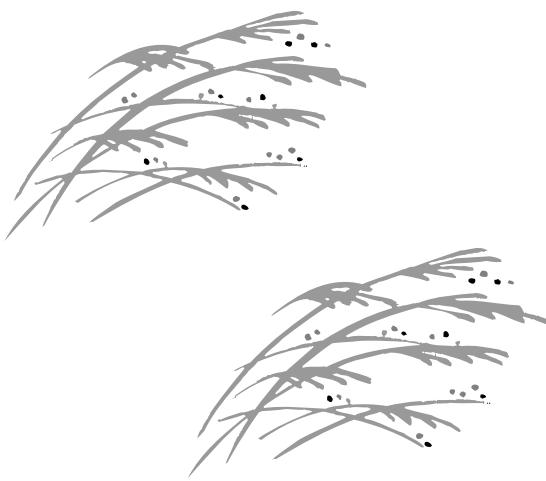
今、母校には在校生の父母を中心とした「後援会」と卒業生を中心とした「高輪会」とがありますが、今迄この両会は余り接点がなく入学式・卒業式等で同席する程度でした。昨年、綜合グランドができるのを機会に「部活動後援会」設立の機運が高まり高輪会に対して役員参加の誘いがありました。高輪会も母校の更なる発展に異論はなく平成15年3月の「部活動後援会設立総会」に副会長として参加することになりました。単なる同窓生の集いのみでなく、母校発展のために何等かの形で寄与できるような同窓会にしたいとも考えておりまので会員の皆様方にも今後ともよろしくご助力の程お願い申し上げます。

昨年から今年にかけては高輪会にとって大きな節目となる出来事がありました。「高輪会」生みの親でもある教頭先生・事務長であった「松原健次先生」が退職されたことです。松原先生は母校に戻られてから45年間まさに母校発展の礎としてご活躍され、「高輪会発足」に際しても陣頭指揮をと

り我々はどちらかと言うと先生の跡をついてきたような感すらしております。高輪会活動も年を負うにつれ、足が地についてきており、同窓生の意識が高まって行くのも高輪会発足にご尽力いただいた松原先生のお陰と、この場をお借りして恐縮ですが厚く御礼申し上げる次第でございます。

昨年は「高輪会総会」、昨年は「第二回いとし会」と高輪会としてのメインの催しを実行してまいりました中、多くの方々のご参加をいただき役員一同、心から感謝しております。

今年は趣を大きく変えて、若年会員対象の催しを計画しております。総会から次の総会までの3年サイクルを有効にできるよう、また一人でも多くの会員の皆様にご参加いただけるような企画を考えていますので、奮ってご参加いただきたくお誘い申し上げます。



## 高輪会の皆様へ

校長  
鈴木 光之



私はこの4月に大阪府枚方市の付属仰星高等学校・中等部から赴任いたしました。

60年の歴史を誇る付属高輪台高等学校は改革が学園の中で最も進み、傘下の高校から追いつけ追い越せとの目標になっています。本校に就任できましたことは大変名誉なことと共に責務の大きさを痛感しております。

昨年、さいたま市大原に東京ドームの2・3倍の広大な総合グランドを購入いたし、授業や部活動で盛んに活用しています。今年度はさらに学習向上を図るために部室（200名利用可能のセミナー室4つ・シャワー室等を備えた延べ1080平米の鉄骨3階建て）の建設に着手いたし、12月末に竣工のはこびとなりました。これも高輪会のご支援の賜物と衷心より御礼申し上げます。

皆様には機会を見つけ是非、学校に総合グランドにお出で頂き、後輩に励ましのお言葉などお掛け頂けたら何物にも勝る励みとなりましょう。

本校は何時でも公開して皆様方の御来校をお待ちいたしております。

今後ともご支援のほどお願い申し上げます。

## ご挨拶

教頭  
片桐 知己治



同窓会の皆様には益々ご健勝で多方面にご活躍と拝察致します。

高輪台高校の同窓会は、他の付属高校の同窓会の中で、一番歴史がある同窓会と聞いております。

本学もすでに卒業生が2万名を超え、6年前より男子校から男女共学へと変換してまいりました。女子の一期生が卒業してから、早や3年が経過し、その一期生も来年大学4年生となり、本学の教育実習に見えます。

又、新しい総合グランドを購入し、サークル活動だけでなく体育祭も実施できるようになりました。

教育面においても着々と改革が進んでおります。そして、この度は部活動後援会の設立に伴い高輪会としても出来るだけ協力するという旨のお話しがあり、後援会と高輪会が一緒になって活動を進めていきたいと思います。

今後も学校、同窓会（高輪会）、後援会の発展と躍進を期待しつつ日常の充実を計り一丸となって、頑張っていきたいと思っております。

会員各位のご理解とご協力を切にお願い致します。



# 第2回「いとし会を終えて」

## 実行委員長 杉山 守男

平成14年10月26日（土）に、第2回「いとし会」が開催されました。

約60名の皆様に参加して頂き盛大に執り行われました。

第1部は、講演会で小林正二さんの司会で始まり、今回は母校の卒業生で現在人事・転職コンサルタントとして広い分野でご活躍されている菅野宏三氏を講師に迎え「今、日本の労働市場で何が起きているか」と題し、日本の労働市場での終身雇用の時代は終わりました。労働市場の現在と将来について講演を頂きました。参加者の皆様は、現在おかれている社会状況が理解でき、大変興味を示されました。

第2部では、吹奏楽部が常任指揮者の畠田貴生氏の指揮で、参加者の年齢にあったなつかしい曲の演奏をし、皆様大変楽しんでおられました。

続いて第3部は大橋忠康さんの司会で、懇親会が始まり恩師の鈴木不二也先生、清水智明先生、志村義樹先生、西園朋史先生、深田二義先生、学校からは杉一郎副校長が出席され、参加者のOBの方々と高校時代の思い出話に花が咲き、大

いに盛り上りました。

最後は横尾紀憲さんの三本締めでお開きとなりました。



## 新人先生紹介

### 「新人教員として」

#### 吉川 博人

卒業後、何年たっても、ある瞬間にふと「あの先生は良い先生だった。」と生徒が思い出すような教員。これが私の理想の教員です。

今は「若さ」で生徒が寄ってきます。しかし、これからは教員としての魅力で生徒を引きつけられるように努力したいと思います。



### 「高輪台の一員になって」

#### 南館 由里香

こんにちは。南館由里香です。英語科、1年10組、美術部、弓道部の担当です。今一番楽しいことはやはり、初めての担任！ 講師、特任時代の学年所属と数えれば、高輪台歴3年目。生徒ならば学校生活最後の年になるんだなあと気を引き締めつつも、新入生気分でまだまだはしゃいでしまいます。どうぞよろしくお願ひいたします。

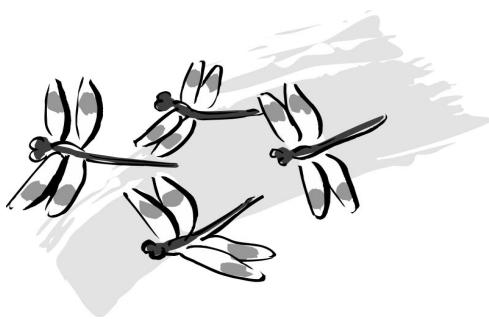


#### 三木 雄介

東海大学付属高輪台高校で非常勤講師を経て、今年度より専任教諭として勤務しております。

教科は、保健体育を担当しております。明るく楽しくをモットーに生徒がけじめある学校生活が送れるよう精一杯努力していきたいと考えております。

宜しくお願い致します。



# 松原 健次先生 退職お祝い会

実行委員長 三浦 政彦

松原先生（教頭・事務長）は、4月に東海大学高輪台高等学校を、定年退職されました。4月19日には、先生にお世話になった学校関係者、卒業生有志の皆さん約50名が集まり、白金の都ホテルにて、先生を囲んで「退職お祝いの会」を開催致しました。

先生は、在任約40年の間多くの卒業生を輩出し、学校の発展、卒業生のフォロー、また同窓会「高輪会」再設立にも公務のお忙しい中にも関わらず、学校と卒業生が疎遠にならないよう、同窓会が絆となるべく「高輪会」設立のために多大なるご尽力を設立関係各位と共に賜りました。「高輪会」がここまで組織的に活動出来るようになったのも偏に、先生のお陰と言えるのではないでしょうか。

私は、昭和40年電子科を卒業しましたが、2年生、3年生の時に松原先生が担任でした。当時では、学校の中でも大変に若々しい先生で、会社勤務を経験された後に先生になられた事もあったと思いますが、私共にとっては何でも話せる相談しやすい、素晴らしい先生でした。

これから第二の人生がスタートしますが、何時までも若々しくご健康でご活躍される事をお祈り申し上げます。また、「高輪会」の益々の発展のためにも引き続きお知恵を拝借させて戴きたく、宜しくお願い申し上げます。



# 高輪会 近況報告

## ■ 慶弔規制度の報告

高輪会の活動を進めてゆく中で、会則以外の諸規定に関しては未整備の状況がありました。

この度、会員の皆様方への慶弔に対する規定を役員会の承認を得て制定いたしました。

制定の主旨は、会員皆様方の慶弔は大切なことであり高輪会としての意思伝達の一つの道筋を定めたものです。更に、同窓会活動のより活性化を図るために、皆様の同期会や同窓会開催に対しても高輪会が少しでもお役に立てるような規定としました。

有効をご利用いただき、皆様方の旧交の場を広めていただきたいと考えております。

### 【高輪会慶弔規程】

制定 平成 15 年 2 月 22 日

#### (総 則)

第1条 高輪会正会員及び特別会員の慶弔に対して、本規程の定めるところにより高輪会会长名、会長不在のときは代行者名にて慶弔の意を表す。

#### (結婚祝)

第2条 高輪会正会員及び特別会員から結婚する旨の連絡を受けたときは「祝電」を贈呈する。

#### (同窓会開催援助)

第3条 高輪会正会員から次の援助対象に叶う同窓会開催の連絡があったときは、当該同窓会幹事に援助金を贈呈する。ただし、次に示す開催結果報告を高輪会事務局宛に提出しなければならない。なお、援助金は2年連続して贈呈はしない。

#### 援助対象

- 1：原則として30名以上の参加者があること。恩師の参加が望ましく、恩師も参加者として加える。
- 2：学年構成が4クラス以上の学年は、複数クラス又は複数学年にまたがること。

#### 開催結果報告

- 1：参加者名簿
- 2：集合写真及び同窓会風景写真、各1枚。
- 3：会報掲載用の原稿（800字以内）。

#### 援助金

- 1：援助金は「¥500/1名」を基本に算出し、合計額は¥50,000を限度とする。
- 2：援助金は開催結果報告の提出をもって贈呈する。

#### (死亡弔慰)

第4条 高輪会正会員及び特別会員死亡の連絡があったときは次の区分に従って弔慰の意を表す。

- 1：高輪会役員とその経験者及び特別会員にあって

は、弔電・供花をもって弔慰とする。

2：高輪会正会員にあっては、弔電をもって弔慰とする。

3：上記区分に該当しない対応が必要なときは会長が役員と協議して判断する。

#### (傷病見舞)

第5条 高輪会役員、その経験者及び特別会員が一ヶ月以上継続して入院を必要とするときは、別途お見舞いをする。見舞いの内容については会長が役員と協議して判断する。

#### (特別功労)

第6条 高輪会に対し特別に功労のあった場合は、役員会の承認を得てその功労に答える。

#### (その他)

第7条 本規程にない項目の運用が必要なときは会長が役員と協議して判断し、後日役員会に報告する。

#### 付 則

1. 本規程は平成 15 年 2 月 22 日より実施する。
2. 本規程に従って受けた慶弔に対する返礼等の配慮は、一切不要とする。
3. 本規程の取扱いについて疑義が生じた場合は、会長が役員と協議して判断する。

制定平成 15 年 2 月 22 日

## ■ 本年度事業について

昨年度は、「第二回いとし会」を行ったが、本年度は、先行き不透明な世情にあって、若い世代の同窓生への動機付けが良と云う考えから、今後は、若年層の力も含め高輪会が新たな交流の場として、発展することを期待し、9月6日（土）に会合を行った。

## ■ 本年度の体制に向けての役割分担について

松原先生が平成 15 年 3 月をもって退任されることになった為、今まで高輪会の経理云々に関して、松原先生に任せっきりになっていた。

今後は、会として責任者を明確にした上で、運用して行かねばならぬ役割分担を決めた。

理事の方々については、主務と言うことで割り振り、全体的には少人数で活動していく必要から個々の活動に対して、フレキシブルな対応をすることになった。

## ■ 部活動後援会の設立

昨年、学校当局（杉副校長、松原教頭、片桐教頭補佐）と高輪会（会長、副会長）との話の中で、グランド購入に伴って「部活動後援会」設立の機運が高まり、設立に向けて準備中との説明がありました。その後、杉副校長から高輪会として「部活動後援会副会長就任」の要望があり、引き受けたことにいたしました。

部活動後援会設立のための準備委員会3月13日に開かれ、骨子が承認されました。続く3月15日には本校において設立総会が開かれ「部活動後援会」として正式発足いたしました。

高輪会としても母校発展の一助にとの思いを込めて、部活動後援会への薄謝を進呈する予定であります。

高輪会会員の皆様方には会報誌上をお借りして恐縮ですが、この部活動後援会の主旨をご理解とご賛同をいただき、賛同会員としてのご協力を今後お願いする次第でございます。

よろしくお願い申し上げます。

## ■ 東海大学付属高輪台高等学校部活動後援会会則

### 第1章 総 則

第1条 本会は東海大学付属高輪台高等学校部活動後援会と称する。

第2条 本会の事務局は、東海大学付属高輪台高等学校内（港区高輪2-2-16）に置く。

### 第2章 目的及び事業

第3条 本会は東海大学付属高輪台高等学校の部活動育成のために、後援活動を行うことを目的とする。

第4条 本会は第3条の目的を達成するために次の事業を行う。

1. 生徒の部活動を援助する事業
2. 総合グラウンドの安定した使用が持続できるための補助
3. 本会の目的達成のために必要な事業

第5条 本会の事業運用に関しては、別に細則を定める。

### 第3章 会 員

第6条 本会は次の会員をもって組織する。

1. 東海大学付属高輪台高等学校の在学生徒の保護者
2. 本会の目的に賛同する者（賛同会員）  
(本校卒業生及びその保護者、東海大学学園関係者、その他有志)
3. 賛同会員の入会、退会は任意とする。

### 第4章 役 員

第7条 本会に次の役員を置く。

1. 会 長 1名
2. 副会長 若干名
3. 監 査 2名
4. 幹 事 若干名

第8条 本会の役員は会員のうちから、次の方法によって

定める。

1. 会長は校長が委嘱する。
2. 副会長・監査は会長が委嘱する。
3. 幹事は三役の推薦により会長が委嘱する。

第9条 役員の任務は次の通りとする。

1. 会 長 本会を代表とし、会を主宰する。
2. 副会長 会長を補佐し本会の会務を分担掌理する。また会長に事故あるときは、その会務を代行する。
3. 監 査 本会の事業及び会計を監査する。
4. 幹 事 会務を分掌する。

第10条 役員の任期は1ヶ年とし、再任を妨げない。

第11条 本会に顧問及び相談役を置くことができる。顧問及び相談役は役員会の推薦により会長が委嘱する。

### 第5章 総会・役員会

第12条 総会は年1回行い、役員の選任、予算・決算の承認並びに重要事項について審議決定する。尚、必要に応じ臨時総会を開くことができる。

第13条 総会は会員の過半数の出席をもって成立する。ただし、委任状をもって出席に替えることができる。

第14条 役員会は、会長が必要と認めたとき随時開催し、会務を処理する。

### 第6章 会 計

第15条 本会の経費は、入会金・会費及び寄付金をもって、これに当てる。

第16条 本会の会計年度は、毎年4月1日より翌年3月31日までとする。

### 第7章 入会金及び会費

第17条 入会金及び会費は次の通りとする。

#### 会 員

1. 入会金 10,000円
2. 会 費 800円（月額）

#### 賛同会員

1. 入会金 なし
2. 会 費 5,000円（年額）

#### 付 則

本会則は2003年4月1日より施行する。

\*\*\*\*\*

2003年度

部活動後援会役員会

2003年3月15日

会 長 森 八一

副会長 立松 久世 土方 啓司（高輪会）

石井カツ子 牧野 喜代子

監 査 奥田 敏子 木村 香誉子

幹 事 紺野 力 吉賀 正子

# 会費納入者一覧

以下の方は、2000年4月より2003年8月31日までの会費納入者です。(卒業年度順)

|       |     |     |     |    |    |     |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
|-------|-----|-----|-----|----|----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 阿部    | 熊雄  | 伊藤  | 信雄  | 原田 | 廣正 | 實   | 寿夫 | 須藤 | 道明 | 小林 | 河野 | 倉川 | 智博 | 中田 | 大介 |
| 岩崎    | 和夫  | 黒尾  | 忠行  | 林  | 義孝 | 村田  | 良夫 | 千葉 | 守  | 千葉 | 青木 | 佐藤 | 覚  | 永野 | 亮一 |
| 加瀬    | 義弘  | 宮崎  | 真木雄 | 飯田 | 道夫 | 斎藤  | 信二 | 守  | 道彦 | 三瓶 | 石橋 | 鈴木 | 卓  | 原島 | 謙一 |
| 飯田    | 一三  | 吉田  | 申一  | 沢  | 健之 | 松本  | 仁志 | 守  | 宏  | 谷口 | 磯田 | 根  | 覺  | 増島 | 広一 |
| 佐川    | 一郎  | 松田  | 公治  | 西島 | 正春 | 青木  | 兼昭 | 渡  | 幸  | 長門 | 大竹 | 富  | 満  | 山川 | 通彦 |
| 高橋    | 強   | 大島  | 巖   | 細田 | 正  | 後藤  | 有三 | 内  | 雄  | 沼澤 | 荻野 | 谷  | 和  | 吉川 | 亮  |
| 田島    | 昇   | 田辺  | 英之  | 前澤 | 春  | 佐々木 | 洋  | 柴  | 司  | 野  | 桑島 | 片岡 | 芳  | 原島 | 謙  |
| 寺門    | 道弘  | 渡辺  | 釣   | 下  | 健  | 瀧   | 市  | 田  | 三  | 村  | 下郷 | 岡谷 | 進  | 増田 | 充  |
| 須賀    | 隆司  | 小長井 | 昭司  | 福本 | 美  | 佐々木 | 信  | 田  | 道  | 中  | 藤原 | 伊藤 | 樹  | 伊藤 | 英  |
| 松崎    | 正弘  | 康督  | 昇   | 啓  | 和  | 前澤  | 昭  | 前  | 彦  | 泉  | 遠藤 | 加藤 | 正  | 田子 | 平之 |
| 井坂    | 暉夫  | 中沢  | 将之  | 間  | 章  | 下   | 信  | 下  | 雄  | 佐  | 谷  | 金子 | 慎  | 渡垣 | 孝人 |
| 石田    | 金藏  | 中原  | 将   | 福  | 和  | 福本  | 喜  | 福  | 雄  | 藤  | 遠  | 加  | 卓  | 鴨田 | 久平 |
| 横山    | 一郎  | 谷越  | 之   | 本  | 信  | 佐   | 文  | 本  | 司  | 石  | 谷  | 藤  | 覺  | 伊藤 | 敏  |
| 宇田川   | 武男  | 市川  | 安   | 和  | 信  | 佐   | 夫  | 坂  | 定  | 中  | 藤  | 子  | 雄  | 伊藤 | 陽平 |
| 大副    | 浩三  | 小林  | 京   | 和  | 章  | 佐   | 滋  | 坂  | 好  | 大  | 佐  | 加  | 義  | 伊藤 | 泰郎 |
| 大屋    | 昭次  | 千代田 | 道   | 和  | 輝  | 佐   | 哲  | 塚  | 博  | 佐  | 竹  | 藤  | 勝  | 永間 | 和人 |
| 小俣    | 昭治  | 松原  | 榮   | 弘  | 輝  | 佐   | 哲  | 木  | 俊  | 佐  | 八  | 本  | 利  | 間  | 文  |
| 金子    | 英二  | 大槻  | 健   | 弘  | 家  | 佐   | 武  | 木  | 伸  | 佐  | 吉  | 永  | 和  | 間  | 彦  |
| 上倉    | 文彥  | 砂川  | 次   | 弘  | 和  | 佐   | 力  | 中  | 洋  | 佐  | 吉  | 永  | 剛  | 間  | 源  |
| 木村    | 睦   | 吉岡  | 弘   | 和  | 夫  | 佐   | 夫  | 中  | 一  | 佐  | 文  | 井  | 博  | 原  | 宏  |
| 佐藤    | 倉   | 新井  | 義   | 弘  | 和  | 佐   | 夫  | 中  | 郎  | 佐  | 文  | 井  | 和  | 川  | 志  |
| 田中    | 義勝  | 飯島  | 信   | 弘  | 和  | 佐   | 利  | 中  | 元  | 佐  | 由  | 井  | 司  | 和  | 平  |
| 谷口    | 正光  | 梅沢  | 信   | 弘  | 和  | 佐   | 昭  | 中  | 昭  | 佐  | 由  | 井  | 和  | 田  | 和  |
| 中田順之助 | 新八  | 岸本  | 憲   | 弘  | 和  | 佐   | 雄  | 中  | 次  | 佐  | 由  | 井  | 和  | 澤  | 太  |
| 長門    | 中西  | 高岩  | 邦   | 弘  | 和  | 佐   | 雄  | 中  | 好  | 佐  | 由  | 井  | 和  | 木  | 晶  |
| 夏目    | 実   | 高畑  | 邦   | 弘  | 和  | 佐   | 雄  | 中  | 弘  | 佐  | 由  | 井  | 和  | 木  | 典  |
| 長谷川善治 | 初川  | 星野  | 邦   | 弘  | 和  | 佐   | 雄  | 中  | 義  | 佐  | 由  | 井  | 和  | 木  | 伸  |
| 初川    | 七郎  | 竹村  | 邦   | 和  | 和  | 佐   | 雄  | 中  | 彦  | 佐  | 由  | 井  | 和  | 木  | 和  |
| 平塚    | 慶治  | 横尾  | 邦   | 和  | 和  | 佐   | 雄  | 中  | 芳  | 佐  | 由  | 井  | 和  | 木  | 文  |
| 中村    | 享平  | 佐藤  | 邦   | 和  | 和  | 佐   | 雄  | 中  | 廣  | 佐  | 由  | 井  | 和  | 木  | 志  |
| 荻久保武雄 | 木俣  | 佐藤  | 邦   | 和  | 和  | 佐   | 雄  | 中  | 忠  | 佐  | 由  | 井  | 和  | 木  | 和  |
| 木俣    | 重隆  | 佐藤  | 邦   | 和  | 和  | 佐   | 雄  | 中  | 利  | 佐  | 由  | 井  | 和  | 木  | 和  |
| 中田順之助 | 中田  | 佐藤  | 邦   | 和  | 和  | 佐   | 雄  | 中  | 昭  | 佐  | 由  | 井  | 和  | 木  | 和  |
| 池田    | 六郎  | 重田  | 邦   | 和  | 和  | 佐   | 雄  | 中  | 雄  | 佐  | 由  | 井  | 和  | 木  | 和  |
| 石関    | 巖   | 菅野  | 邦   | 和  | 和  | 佐   | 雄  | 中  | 昭  | 佐  | 由  | 井  | 和  | 木  | 和  |
| 市川    | 幸平  | 敦賀  | 邦   | 和  | 和  | 佐   | 雄  | 中  | 次  | 佐  | 由  | 井  | 和  | 木  | 和  |
| 井出    | 健一  | 喜悦郎 | 邦   | 和  | 和  | 佐   | 雄  | 中  | 雄  | 佐  | 由  | 井  | 和  | 木  | 和  |
| 井上    | 昌   | 正智  | 邦   | 和  | 和  | 佐   | 雄  | 中  | 雄  | 佐  | 由  | 井  | 和  | 木  | 和  |
| 上島    | 弘安  | 喜   | 邦   | 和  | 和  | 佐   | 雄  | 中  | 雄  | 佐  | 由  | 井  | 和  | 木  | 和  |
| 奥山    | 貞男  | 慶   | 邦   | 和  | 和  | 佐   | 雄  | 中  | 雄  | 佐  | 由  | 井  | 和  | 木  | 和  |
| 加藤    | 慶男  | 間藤  | 邦   | 和  | 和  | 佐   | 雄  | 中  | 雄  | 佐  | 由  | 井  | 和  | 木  | 和  |
| 間藤    | 禎三  | 和夫  | 邦   | 和  | 和  | 佐   | 雄  | 中  | 雄  | 佐  | 由  | 井  | 和  | 木  | 和  |
| 鎌田    | 和夫  | 和   | 邦   | 和  | 和  | 佐   | 雄  | 中  | 雄  | 佐  | 由  | 井  | 和  | 木  | 和  |
| 木俣    | 博匡  | 和   | 邦   | 和  | 和  | 佐   | 雄  | 中  | 雄  | 佐  | 由  | 井  | 和  | 木  | 和  |
| 栗田    | 富雄  | 誠   | 邦   | 和  | 和  | 佐   | 雄  | 中  | 雄  | 佐  | 由  | 井  | 和  | 木  | 和  |
| 坂路    | 嶋ノ内 | 昭夫  | 邦   | 和  | 和  | 佐   | 雄  | 中  | 雄  | 佐  | 由  | 井  | 和  | 木  | 和  |
| 清水    | 正三  | 相   | 邦   | 和  | 和  | 佐   | 雄  | 中  | 雄  | 佐  | 由  | 井  | 和  | 木  | 和  |
| 相山    | 清生  | 喜   | 邦   | 和  | 和  | 佐   | 雄  | 中  | 雄  | 佐  | 由  | 井  | 和  | 木  | 和  |
| 鷹取    | 将夫  | 是光  | 邦   | 和  | 和  | 佐   | 雄  | 中  | 雄  | 佐  | 由  | 井  | 和  | 木  | 和  |
| 手嶋    | 是光  | 是光  | 邦   | 和  | 和  | 佐   | 雄  | 中  | 雄  | 佐  | 由  | 井  | 和  | 木  | 和  |
| 中島    | 秀夫  | 秀夫  | 邦   | 和  | 和  | 佐   | 雄  | 中  | 雄  | 佐  | 由  | 井  | 和  | 木  | 和  |
| 早川    | 弘   | 弘   | 邦   | 和  | 和  | 佐   | 雄  | 中  | 雄  | 佐  | 由  | 井  | 和  | 木  | 和  |
| 原     | 道明  | 道明  | 邦   | 和  | 和  | 佐   | 雄  | 中  | 雄  | 佐  | 由  | 井  | 和  | 木  | 和  |
| 本田    | 達雄  | 達雄  | 邦   | 和  | 和  | 佐   | 雄  | 中  | 雄  | 佐  | 由  | 井  | 和  | 木  | 和  |
| 村田    | 達夫  | 達夫  | 邦   | 和  | 和  | 佐   | 雄  | 中  | 雄  | 佐  | 由  | 井  | 和  | 木  | 和  |
| 矢野    | 智司  | 智司  | 邦   | 和  | 和  | 佐   | 雄  | 中  | 雄  | 佐  | 由  | 井  | 和  | 木  | 和  |
| 伊藤    | 勉   | 勉   | 邦   | 和  | 和  | 佐   | 雄  | 中  | 雄  | 佐  | 由  | 井  | 和  | 木  | 和  |
| 生井    | 良宏  | 良宏  | 邦   | 和  | 和  | 佐   | 雄  | 中  | 雄  | 佐  | 由  | 井  | 和  | 木  | 和  |
| 沢信司   | 海老澤 | 正昭  | 邦   | 和  | 和  | 佐   | 雄  | 中  | 雄  | 佐  | 由  | 井  | 和  | 木  | 和  |

## 役員紹介

### 理事 佐藤 潔 (S62卒)

高輪会会員の皆様、初めまして。私は高輪会役員を勤めさせて頂いております。S62年卒の佐藤 潔と申します。

高輪会及び、会員の堅い絆と繁栄を目指し頑張って参りますのでご指導、ご支援頂きたくお願い申し上げます。

### 理事 青木 晃 (H05卒)

93年度卒業生の青木です。卒業以来、なかなか母校である高輪台を訪れる機会がありませんでした。

その間に校舎の建て替えや男女共学化等の変化がありましたが、久方ぶりに訪問した際に、在校生の方々の挨拶から、明るく元気な校風に変わりがないことを感じました。この校風を守るために、諸先輩方と協力して頑張りますのでよろしくお願いします。

## 学校報告・部活紹介

### ・柔道部

私達柔道部は、木曜日以外の毎日、全国大会・関東大会を目指して練習しています。

部員は、マネージャーを含めて3年生12人、2年生9人、1年生17人の38名で活動しています。

主に本校B3階の武道場で活動しており、週に2日大学にも練習に行きます。

成績としては、関東大会に通算11回目の出場として表彰されました。又、個人においても、昨年度東京代表として出場し優勝。今年度も東京都予選において、1位の成績を修めています。



### ・吹奏楽部

#### 「カナダコンサートツアーホームスティ」

主将 森 由理子

どこまでも続く広い空に迎えられた私達のカナダ・コンサートツアーホームスティは始まった。

6回の本番と1週間のホームスティ。言葉の壁はあるものの、「音楽」という共通語を十分に活用し、ホストファミリーとの交流や、日本では味わうことの出来ないスタンディングオペレーションなど、カナダの人のたくさんの優しさにふれ

て成長してきた私達は、次なる目標に向けて頑張って行こうと思う。



### ・野球部

#### 「響く声」

山田 歩

今日もグランドに声が響いている。その声は自分達を励ます声、楽しくやろうとする声だと思う。それらの声を出すのに忘れてはほしくないことがある。それは、感謝の気持ちである。

OBの方や先生、家族などの全ての人の支えがあって今日もプレーすることが出来る。

こういう気持ちを持って、もっと声を出してほしい。

今日も声が響きわたる。



## ・ラグビー部

主将 原 亮一

昨年の秋から総合グランドを利用することが出来るようになりました。

これまでの練習時間は、日が落ちるまでと活動時間が短く、物足りなかった練習も総合グランドにはナイター設備も整い思う存分練習することができるようになりました。

このグランドで一生懸命練習し、花園出場という目標に向けてがんばりたいと思います。



## ・サッカー部

～グラウンドを使用して～ 主将 木村 泰

僕たちサッカー部は、昨年の10月から本校の新しいグラウンドで週に約3回練習しています。

本校のグラウンドは、ほぼ平らで雨が降っても水はけが良いため、常にとてもよい環境で練習することができます。僕が1・2年生の頃には考えられないことでした。

環境に向かって結果の向上が求められると思うので、精一杯頑張ろうと思います。



## ・建学祭について

実行委員長 飯田 雅美

今年度の建学祭は、「JUMP」というテーマで行われます。これまでに先輩方が積み上げてこられた伝統を活かしながら、更に一步上を目指していくこうという生徒達の決意の表れです。

生徒の実行委員達は、4月の段階から準備に入り建学祭が盛り上がるよう計画を練っています。

OBの方々にも是非ご来校いただき、ご覧いただきたいと思っております。



## 学校・同窓会行事（9月～10・11・12月）

|            |   |
|------------|---|
| 9月 1日 (月)  | 授業開始  |
| 3日 (水)     | 秋季学園基礎学力試験  |
| 16日 (火)    | 前期期末試験（～19日 (金)）                                      |
| 24日 (水)    | 生徒による授業評価アンケート  |
| 27日 (土)    | 1・2・3年保護者会（成績発表・家庭通知表配布等）                             |
| 10月 1日 (水) | 都民の日（休業日）   |
| 2日 (木)     | 後期始業式・後期授業開始  |
| 3日 (金)     | 中学校教員学校説明見学会  |
| 5日 (日)     | 塾教員学校説明見学会  |
| 6日 (月)     | 受験生・保護者学校説明見学会①                                       |
| 14日 (火)    | 第2回体育祭  |
| 18日 (土)    | 英語検定試験  |
| 20日 (月)    | 第2学年保護者面談（～11月22日 (土)）                                |
| 23日 (木)    | 第1学年進路説明会   |
| 30日 (木)    | 学年集会（第1学年）  |
| 11月 1日 (土) | 建学記念日（生徒休業日）  |
| 4日 (火)     | 創立60周年記念式典（朝礼）  |
| 6日 (木)     | 生徒会立会演説会  |
| 7日 (金)     | 後援会湘南校舎見学研修会  |
| 9日 (土)     | 受験生・保護者学校説明見学会②                                       |
| 24日 (土)    | 第14回吹奏楽部定期演奏会（錦糸町：トリフォニーホール）<br>[13:00～、17:00～の第2回公演] |
| 12月 1日 (月) | 朝礼  |
| 2日 (火)     | 1・2年後期中間試験・3年卒業試験（～5日 (金)）                            |
| 12日 (金)    | 卒業認定会議  |
| 15日 (土)    | 入試相談  |
| 20日 (土)    | 体育集中授業（スキー）（～21日 (火)）                                 |

## 2002 年度活動報告

### 2001 年度 収支決算書

(2001 年 4 月 1 日～2002 年 8 月 31 日)

(単位：円)

| 収支  | 科目         | 予算        | 決算        | 備考                           |
|-----|------------|-----------|-----------|------------------------------|
| 収入  | 1. 前年度繰越金  | 3,218,186 | 3,218,186 |                              |
|     | 2. 入会金     | 4,770,000 | 4,770,000 | 10,000 円 * 477 名             |
|     | 3. 維持会費    | 850,000   | 17,000    |                              |
|     | 4. 特定預金繰入  | 925,000   | 925,000   |                              |
|     | 5. 預金利息    | 7,000     | 5,197     |                              |
|     | 6. 雑収入     | 0         | 146,000   |                              |
| 合 計 |            | 9,770,186 | 9,081,383 |                              |
| 支出  | 1. 会議費     | 300,000   | 232,772   | 役員会食事代（いとし会含む）、他             |
|     | 2. 広報費     | 100,000   | 20,000    | 連合会会報代、他                     |
|     | 3. 涉外費     | 200,000   | 335,000   | 連合会会費、他                      |
|     | 4. 印刷費     | 6,000,000 | 3,480,254 | 会報（200 万円・3 年分）、名簿（360 万円）、他 |
|     | 5. 通信費     | 2,500,000 | 1,342,906 | 会報送料、はがき代、他                  |
|     | 6. 旅費交通費   | 100,000   | 237,290   | 連合同窓会、役員会（いとし会含む）、他          |
|     | 7. 用品費     | 10,000    | 0         |                              |
|     | 8. 事務雑費    | 5,000     | 14,935    | 文房具他                         |
|     | 9. 補助費     | 200,000   | 239,975   | 懇親会等                         |
|     | 10. 記念品費   | 300,000   | 310,527   | 卒業生記念品（証書ホルダー）               |
|     | 11. 特定預金   | 0         | 0         |                              |
|     | 12. 雑費     | 50,000    | 21,090    |                              |
|     | 13. 次年度繰越金 | 5,186     | 2,846,634 |                              |
| 合 計 |            | 9,770,186 | 9,081,383 |                              |

### 2001 年度 特定預金

(単位：円)

| 項目        | 金額         |
|-----------|------------|
| 前年度よりの繰越額 | 12,700,000 |
| 今年度繰出額    | 925,000    |
| 今年度組入額    | 0          |
| 合 計       | 11,775,000 |

会計担当 杉山 守男  
大塚 昭

監査の結果、収入・支出の各項目について、収支計算は公正妥当なものであることを認めます。

2003 年 9 月 1 日

監査役 本田 達雄  
伊藤 信雄

## 2002 年～2003 年度事業計画

(2002 年 4 月 1 日～2003 年 8 月 31 日)

- 2002 年 10 月 高輪会開催（総会・いとし会・高輪会）  
高輪台高校建学祭参加  
連合同窓会参加
- 11 月 高輪会開催（総会・いとし会・高輪会）  
結果の反省会
- 12 月 「第 2 回いとし会」反省会
- 2003 年 1 月 高輪役員会：入学式・卒業式等の確認
- 2 月 高輪役員会：高輪会慶弔規程制定・部活動後援会発足の会  
「第 2 回いとし会」決算報告
- 3 月 高輪会入会式・新幹事歓迎会、卒業式参列
- 4 月 入学式参列、高輪役員会：本年開催計画確定  
「松原健次先生を送る会」
- 5 月 連合同窓会会长会議
- 6 月 部活動後援会との会議

## お知らせ

### □会費納入のお願い

会員の皆様には、同窓会費 1 年分（2 千円）～5 年分（1 万円の一括）の納入を受け付けております。

何年分か明記の上、郵便局備え付け、または同封の振込用紙をご利用下さい。

口座番号 00100-9-155498

口座名（加入者名） 高輪会

※氏名欄には、必ず卒業年、組をご記入下さい。

尚、すでに納入済みの節はご容赦下さい。

### □住所不明者の調査

会報の届かない方（住所不明者）がいらっしゃいましたら、情報（氏名、卒業年、等）を同窓会事務局までご連絡下さい。

### □会員名簿発行

平成 16 年 3 月末に 2003 年度版同窓会会員名簿を発行することになりました。

名簿詳細に関しては、下記同窓会連絡先の高輪会事務局分室までお問い合わせ下さい。

## 編集後記

会報編集も 2 回目を迎え、少しは慣れてきましたが、まだまだ至らぬことが、多々あります。

今回も、皆様のご協力を頂き発行に漕ぎ着けることが出来ましたこと、大変感謝しています。

次回発行に向けて、クラス会等開催された卒業生皆様の記事を募集しております。又、同窓会活動等に関するご意見、ご希望もお待ちしております。

高輪会事務局まで、お願い致します。

三浦 政彦  
浅野 修一

### 同窓会連絡先

高輪会（東海大学付属高輪台高等学校同窓会）事務局

〒108-8587 東京都港区高輪 2-2-16

TEL: 03-3448-4011 · FAX: 03-3448-4020

ホームページ <http://www.takanawadai.tokai.ed.jp/>

高輪会事務局分室（株）山九内（東海大学付属高輪台高等学校同窓会 伊藤 信雄）

〒107-0062 東京都港区南青山 4-1-11 リライアンスビル 303

TEL: 03-3405-7283 · FAX: 03-5414-5414

E-mail: [syamakyu@sepia.ocn.ne.jp](mailto:syamakyu@sepia.ocn.ne.jp)